





島田藏書

ル 2  
2963  
4

ル 2  
2985  
5

西洋事情二編卷之二

魯西亞

史記

福澤諭吉 纂輯

往古魯西亞ノ地方ニハシチアレト云ヘル蠻野ノ  
 民族アリテ荒漠ノ原野ニ住居シ水草ヲ逐テ徘徊  
 セシト云フ蓋シ當時ノ事跡ハ盡ク暗昧ニ屬シ正  
 史ノ據ル可キモノナシ紀元八百年代ノ央ニ至リ  
 連國ノ人ロリクナル者北海ニ在テ海賊ヲ為セシ  
 ガノウゴロット今ノ南東百  
 里ノ處ニ在リノ人ニ招カ

西洋事情二編 卷之二



レ共ニ諸方ヲ侵掠シテ遂ニ國ノ大半ヲ押領シタ  
リ紀元八百八十三年オレグナル者ロリクヲ殺シ  
テ其國ヲ奪ヒキ<sup>キ</sup>ウノ地ヲ取テ都府ト爲セリ紀  
元九百四年オレグ二千艘ノ木舟ニ八萬人ノ兵卒  
ヲ乘セテドニイプル河ヲ下リコンスタンチノポ  
ル<sup>ル</sup>今ノ土耳其格ノ首府當ヲ攻メントシ大風ニ妨ケ  
ラレテ果タス紀元九百四十一年ニ至リロリクノ  
子イゴル再ヒ兵ヲ發シテコンスタンチノポルヲ  
攻メテ復々克マス紀元九百八十年ウラギミルナ  
ル者其兄ヲ弑シテ國位ニ即キ希臘帝第二世<sup>ギリキ</sup>バシ

ルノ妹ヲ娶リ始テ耶蘇ノ法教ヲ奉シテヨリ國ノ  
形勢一面目ヲ改メリ爾後其臣民モ君主ノ例ニ倣  
テ改宗スル者多ク國力次第ニ強盛ヲ致シ其君ヲ  
大公ト稱セリ千十五年ウラギミル死シテ後ハ其  
子互ニ位ヲ争ヒ遂ニ一國ノ内亂ヲ生シ干戈止ム  
時ナク二百年ノ星霜ヲ經タリコノ時ニ當テ亞細  
亞洲ノ蒙古ニゼンジスカンナル者アリ元一小種  
族ノ酋長ナリシカ幼ニシテ膽略アリ歳十四父ノ  
位ヲ嗣キ近傍ノ諸蠻ヲ攻テコレヲ滅シ酋長七十  
人ヲ煮殺シコレヨリ次第ニ強盛ノ勢ヲ致シテ四



方ニ遠征シ殆ト亞細亞ノ一大洲ヲ并吞シ東西七千里南北三千五百里ノ地ヲ一政府ノ下ニ領セリ千二百二十七年ゼンジスカレ死シ其子ツウシイ父ノ遺業ヲ繼キ五十萬ノ大兵ヲ舉テ西方ノ諸國ヲ征シ漸ク進テ魯西亞ニ迫リ南東ノ境ヨリ侵入シテ亞東海ノ邊ニ屯シ魯國同盟ノ諸君ニ克チ大ニ兵威ヲ耀カシタレト暴死事ヲ果タサス千二百三十六年ツウシイノ子バトウ再舉シテ來寇シ人ヲ殺シ火ヲ放チ屠戮侵掠至ラサル所ナク全國遂ニ蒙古ノ羈絆ニ屬セリ蒙古ノ人ハヲルガ河ノ畔

ニ都府ヲ設ケテ國人ニ号令シ國內ノ諸君ヲシテ貴族臣下ノ列ニ立タシムルトハ雖氏之ヲ凌辱スルヲ甚タシ毎年蒙古王ヨリ欽差大臣ヲ遣テ國內ヲ巡行セシメ貢稅ヲ收ルキニ魯ノ諸君ハ身躬カラ大臣ヲ迎ヘ其馬ノ轡ヲ取テ之ヲ導キ廟堂ノ儀式ニ用ル所ノ杯盆ニ麥ヲ盛テ之ヲ馬ニ喰ハシムルヲ例トセリ斯ノ如シ蒙古ノ苛政ニ窘メラルト凡二百五十年此際ニ當テ蒙古ノ羈絆ヲ脱スルモノハ獨リノタグロツトノ一州ノミ此地方ニハ初ヨリ獨立ノ合衆政治ヲ行ヒ日耳曼ハシセチクノ



同盟西洋事情外篇第二卷 入專ヲ貿易ヲ勉メテ  
富强ヲ致シ人口繁殖シテ五十萬ニ至レリト云フ  
千三百六十一年蒙古王バトウノ血統絶ヘテ位ヲ  
争フ者多シ魯人其釁ニ乘シテ恢復ヲ謀リ蒙古ノ  
命ニ從ハサル者アリ千三百八十年魯西亞ノ一諸  
侯デメトリス兵ヲ舉テ蒙古ノ首長テムニクマミ  
ナル者ト戰テ之ニ勝タレト蒙古ノ兵威尚未タ衰  
ヘスシテ魯人却テ和ヲ求メタリ其後蒙古ノ種族  
ニ内亂ヲ生シゼンジスカンノ外孫チメル一名タル  
云トナル者兵ヲ舉テ諸方ヲ征シ遂ニ魯西亞ニ在

ル所ノ蒙古ヲモ攻テ之ニ勝チ蒙古ノ威勢復々振  
ハス魯人モ漸ク之ニ抗抵シテ五角ノ戦争ヲ為シ  
得ルニ至レリ千四百六十二年モスコノ君第三  
世イワシ位ニ即テヨリ漸ク強盛ノ勢ヲ成シ蒙古  
ト戰テ屢勝チ千四百八十年ニ至テ盡ク之ヲ放逐  
シ蒙古ノ跡魯ノ境内ニ絶タリ  
魯西亞ノ歴史ハ第三世イワシニ至テ一面目ヲ改  
メリ此君ハ唯蒙古ノ寇ヲ放逐セシノミナラズポ  
イランドリシア等ノ諸國ヲ征服シノウゴロ  
トノモ并吞シテ威名漸ク西方ニ轟キ歐羅巴ノ諸



國ヨリ使節ヲ遣リ其首府タルモスコロニ於テ之ヲ待遇シ始テ各國并立ノ勢ヲ成セリイワンノ下民ヲ御スルハ極テ刻薄ニシテ慈悲ナク私心ヲ恣ニシ私威ヲ逞フスルモノト雖其規模宏大ニシテ其成功美ナルヲ以テ魯國宗祖ノ名ヲ辱カシメサルナリ千五百五年第三世イワン死シ其子ワシリ立ツ在位二十八年ニシテ死シ太子立ツ之ヲ第四世イワントス年甫テ三歳長シテ才幹アリ第三世イワンノ業ヲ繼キ外ハ近傍ノ土地ヲ并セ内ハ貴族ノ暴威ヲ壓例シテ名聲日ニ高シ但シ其性情

猛烈ナルヲ以テ世人コレニ綽号ヲ附テテリブルイワント云ヘリテリブルトハ恐ル可キノ義ナリテリブルイワン在位ノ間ニシベリヤ亞細亞州ノ北方ノ地地ヲ版圖ニ并セ始テカザル魯君ノ稱ノ尊号ヲ定メリ千五百八十四年第四世イワン死シ太子ノドール立ツ暗弱ニシテ國事ニ堪ヘズ千五百九十八年ノドール死シテ子ナシロリクノ後胤男子ノ血統是ニ於テ始テ絶タリ蓋シロリクノ家ヲ起シテヨリ年ヲ經ルヲ七百余年世ヲ累ルヲ五十六代ナリノドールノ死後ハ權臣ボリスナル者國位ヲ奪テ暴



威ヲ恣ニシ位ヲ僭スルト六年ニシテポロラント  
 ニ一男子アリ偽テエドールノ子ドミトリ生レテ四歳ニ  
 シテボリスニ弑ト稱シ兵ヲ舉テボリスニ克チ又  
 セラレタルモノ如ク數年ノ間全國無君無政ノ  
 其位ヲ奪ヘリ斯ノ如ク數年ノ間全國無君無政ノ  
 混亂ナリシガ千六百十三年ニ至リ國人怒テ偽君  
 ドミトリヲ殺シ相共ニ謀テミカエルロマノフヲ  
 立テ、君ト爲セリロマノフノ家系ハ女子ノ血統  
 ヲ以テ國祖ロリクノ後胤ニ係リ即チ現今魯國帝  
 家ノ宗祖ナリロマノフ即位ノ時ハ年甫テ十七其  
 父ミラレトツ宗旨統領ノ全權ヲ以テ幼君ヲ補佐

シ攪亂ノ後ヲ承テヨク國事ヲ理シ文ヲ脩メ武ヲ  
 講シ國民始テ太平ノ澤ニ浴スルヲ得タリシラレ  
 一ツハ殊ニ文學ニ心ヲ用ヒ當時魯國ノ首府タル  
 モスコロニ印版ノ局ヲ再建シテ著書日ニ盛ナリ  
 魯國ニテ始テ書ヲ版ニセシハ千六百四十五年  
 五百六十四年第三月ノナリ  
 ロマノフ死シテ太子アレキス立ツ此君再ヒ娶テ  
 兩ナカラ子アリ先妃ハエドール及ヒイワンヲ生  
 ミ後妃ハペイトルヲ生メリ千六百七十六年フニ  
 ドル父ノ位ヲ繼キ千六百八十二年死シテ子ナシ  
 死ニ臨ミ遺命シテペイトルニ位ヲ傳ヘリ蓋シイ



ワシノ虚弱ナルガ故ナリ死後ニ至リ國中ノ士族  
或ハ先君ノ命ヲ奉シテペイトルヲ立テントスル  
者アリ或ハイワンヲ助ケテ位ヲ得セシメントス  
ル者アリ國論沸騰シテ定ラサルト久シ其亂階ヲ  
尋ルニイワンノ姉異母姉ナリソヒヤナル者奸才  
アリイワンノ暗弱ヲ利シテコレヲ位ニ即カシメ  
已レ自カラ政權ヲ握ラントスルノ陰謀ヨリシテ  
遂ニ此騷亂ヲ釀シタルナリ同年第五月ニ至リ國  
中ノ議漸ク定リイワン及ヒペイトルヲ立テ、一  
國兩君ト為シ國ノ大權ハソヒヤノ手ニ歸シ二幼

君ノ後見職ト稱シテ百事皆其裁斷ヲ經サルモノ  
ナシペイトルハ偽テ懶惰放盪ヲ事トシ嘗テ朝政  
ニ參ルコトナク獨リ自カラ後日ノ事ヲ思慮シテ憂  
苦ノ色ヲ顯ハサス七年ノ星霜ヲ經テ年甫テ十七  
歳國中一貴族ノ女ヲ娶レリコレヲ事業ノ始トス  
爾後漸ク姉ノ羈絆ヲ脱シテ既ニ蛟龍ノ勢アリ亦  
池中ノ物ニ非ラスコレヨリ先キ瑞西ノ士人レホ  
ルト蘇格蘭ノ士人ゴルドンナル者アリペイトル  
コノ二士ヲ養テ腹心ノ臣ト為シ共ニ謀テ事ヲ行  
ヒ英斷ヲ以テソヒヤヲ捕ヘコレヲ寺院ニ禁錮シ



其寵臣プリンスガリチンヲ放逐セリイワシモ亦  
自カラ位ヲ辭シ全國ノ政治始テペイトル帝ノ親  
裁ニ歸セリ此時ニ至ルマテペイトルハ嘗テ教育  
ヲ被リシトチク性情猛劇ニシテ沈湎冒色ノ惡習  
ヲ成セリト雖天稟梟斷ノ英才ヲ抱テ一時ニ國  
内ノ改革ニ從事シ新ニ軍制ヲ立テ將士ノ階級ヲ  
定メ天子躬カラ兵士ノ列ニ加ハリ鍛練ノ實功ヲ  
以テ次第ニ登級シ國內ノ貴族ヲシテ盡ク其例ニ  
效ハシメリ又古來魯國ニ船舶ナキヲ患ヒ和蘭及  
ヒフェナイスノ船工テ雇ヲ小船ヲ造ラシメコレヲ

ペイナス湖ニ浮ヘリ蓋シ魯國海軍ノ濫觴ナリ又  
コノ時魯國ノ港アルカンゼルニ和蘭船及ヒ英國  
船ノ碇泊セルモノアリペイトル躬カラ此船ニ乘  
リ近海ヲ渡航シテ實地ノ術ヲ試ミ次テ又國內ノ  
少年數名ヲ選ヒフェナイス及ヒ和蘭へ遣テ航海術  
ヲ傳習セシメリ千六百九十六年土耳其ヲ攻メア  
ゾフ海ノ地ヲ并セタルモ自國ニ海軍ヲ開カント  
スルノ目的ナリ同年ペイトルハ其妃ヲ離縁セリ  
建言セシ故又ペイトルハ其國人ノ風俗ヲ觀テ未  
タ蠻野ノ臭ヲ脱セサルヲ患ヒコレヲ文明ニ道カ

西洋書卷二

八



レカ為專ラ歐羅巴西方ノ諸國ニ交ヲ結ヒ其物ヲ見其言ヲ聞キ其流風ヲ自國ニ移サントセリ且又自已ノ無學ナルヲ知リ深クコレヲ耻テ獨リ自カヲ謂ヘラク人ヲ教ヘントスルニハ已レ自カラコレヲ學ハサル可ラスト乃チ國事ヲ棄テ微服シテ外國へ遊學セリ于時千六百九十七年ナリ近臣數人ト共ニ國ヲ去リ先ツ和蘭ニ行キサールダムノ造船局ニ入テ造船ノ役夫ト為レリ傳ヘ云フ當時ペイトルハ每朝早起自カラ茶ヲ煎テ食シ食終テ業ニ就キ終日勉強シテ賃錢ヲ受ルヲ尋常ノ役夫

ニ異ナルナシト又云フペイトルハ身体長大ニシテ力アリ歩行疾速ニシテ業作輕快顔面肥大ニシテ圓ク眉毛茶褐色ニシテ卷髮屈回其容貌コレヲ一見シテ怖ル可シト○右ノ如ク造船ノ諸術ヲ學フ餘業ニハ窮理天文地理ノ學ヨリ醫術解剖ニ至ルマテ盡ク研究セサルハナシ千六百九十八年第一月和蘭ヨリ英國ニ行キ留ルヲ八月ニシテ復々和蘭へ歸ラントスル時英國王井ルレム一小船ヲ贈リ學術ノ教師數名ヲ載セテ共ニ去レリ○英蘭兩國ニ遊學ノ間既ニ造船航海術ノ奧義ヲ究メタ



レバ又陸軍ノ法ヲ學ハレト欲シノ地地利ノ兵制ハ全歐羅巴洲ニ冠タルヲ傳聞シテ乃チ其首府井ニ赴キナ埃帝レヲポルトニ面晤シテ陸軍ノ事ヲ談シ又去テ伊太里ニ行ントスルキ國內ノ士族亂ヲ起シタルヲ聞キ急ニ井ナヲ辞シテ微服シテモスコリニ歸レリ于時千六百九十八年第九月ナリ帝ノ未夕歸國セサル前ニ將軍ゴルドン兵ヲ發シテ賊ヲ討シ一萬人ヲ殺シテ七千人ヲ捕ヘ事既ニ平ラキタレ氏帝ハ尚コレヲ以テ足レリトセス囚俘七十人ヲモ盡ク死刑ニ處シ或ハ縊リ或ハ斬

リ古來未曾有ノ殘酷ヲ極メタリト云フ爾後尚國內ノ物論穩カナラス亂ヲ起ス二度ニ及ヘルヲ以テ帝乃チ意ヲ決シテ士族ノ兵隊ヲ廢シ新ニ日耳曼ノ兵制埃地利ノニ效テ隊伍ノ式ヲ定メ魯西亞ノ軍制コニ於テ一新セリ○帝既ニ諸國ヲ遊歴シテ其文明ノ風ヲ慕ヒ自國ノ民ヲ開化セント欲シテ自カラ謂ラク魯人ヲシテ他國ノ學術ヲ學ハシメントスルキハ其服飾モ亦他ノ風ニ從ハサル可ラストテ國中ニ命シ西方諸國ノ風ニ效テ衣服ノ制ヲ改メ鬚ヲ剪截ス可シトノ令ヲ下メシタ



ルニ左右近臣ハ速ニ命ヲ奉シタレバ頑愚ノ民ハ  
コレヲ悦ハス帝乃チ新法ヲ設ケテ長衣長鬚ノ稅  
ヲ定メ諸都府ノ關門ニ衣服ノ見本ヲ掲ケテ稅金  
ヲ出タスヲ欲セサル者ハ此制式ニ從テ衣服ヲ短  
クシ兼テ亦其鬚ヲモ剪ル可シトノ嚴命ヲ布告セ  
リ○從來魯西亞ニテハ外國人ト貿易スル者ハ死  
罪ニ處スルノ法ナリシガペイトルニ至テ此法ヲ  
廢シ專ラ外國ノ貿易ヲ勵マシ外國ノ書ヲ取テ翻  
譯セシメ法則ヲ設ケテ出版ヲ盛ニシ海軍及ヒ其  
他ノ學校ヲ開クヲ甚タ多シ○國內ノ改革漸ク其

條理ヲ得ルニ從ヒ乃チ又外國ノ事務ニ注意シ魯  
ノ舊地イイングリヤ及ヒカレリヤ當時瑞典ノ領ヲ  
恢復セシトシテポーランド及ヒ噠國ノ君ト好ヲ  
通シ瑞典ヲ攻メントヲ謀リ帝自カラ六萬ノ兵ヲ  
卒ヒ大砲百四十五門ヲ引テナルウノ城ヲ圍ミ將  
軍コロイ及ヒドルコルキニ事ヲ託シテ自カラノ  
ウラロットニ退陣セリコノ時ニ當テ瑞典王第十二  
世チャーレス齡未タ十八歲ニ滿タズ即位僅カニ二  
年ニシテ國事ニ慣レサレル天稟武勇ノ膽略アリ  
寇至ルヲ聞テ乃チ起チ自カラ兵ヲ指揮シテコレ

西洋書一冊  
卷之二  
士



ニ赴キ先ツ魯軍ノ先鋒ヲ破リ尚進テナルワニ至  
リ僅カニ八千ノ兵卒ト十門ノ大砲ヲ以テ六萬ノ  
大軍ニ向ヒ遇テ雪風驟冥ナルニ會シ雪ニ乘シテ其  
本陣ニ迫リ短兵接戦立トコロニ其隊伍ヲ亂ダリ  
走ルヲ追ヒ留ルヲ斬リ殺傷其數ヲ知ラス武器ヲ  
棄テ、降ル者三萬人其將士ト雖降伏ノ後始テ  
敵ハ僅カニ八千ノ小兵ナリシヲ知レリト云フ于  
時千七百年第十一月晦日ナリコレヨリ第十二世  
チャールズノ威名全歐羅巴洲ニ轟テ或ハ之ヲ慕フ  
者アリ或ハ之ヲ恐ル、者アリテ一時ニ人ノ耳目

ヲ驚カシタリト云フ魯ノ兵ハ既ニ未曾有ノ敗衄  
ヲ取タレヒ帝敢テ其節ヲ變セス從容トシテ云ク  
瑞敵暫ク利ヲ得ルト雖我カ師ナリ我ハ必ス彼  
ニ勝ツノ術ヲ彼ニ學ハシメト爾後益々兵ヲ募  
リ武器ヲ製シ操練怠タルヲナシ大砲ヲ造ラント  
スルニ金ヲ得ヌ乃チ寺院ノ鐘ヲ鎔カシテコレヲ  
鑄リ大砲百門野戰砲百四十三門ヲ得タリコレヨ  
リシテ魯ノ兵力漸ク振ヒ且ツ瑞典王ハ專ラ南征  
シテ後ヲ顧サルカ故ニ魯人ハ此機會ニ乘シテ北  
境ノ地ヲ略シ瑞ノ兵ト戦テ互ニ勝敗アリ千七百



二年ニ至テマリインボルフノ地ヲ取り  
ノ西南ニ百餘里ニアリ翌年又チワ河畔ノ地ヲ押領シテ新都  
ペイトルスボルフノ造營ヲ始メリコノ時ニ至ル  
マテペイトルスボルフノ地ハ不毛ノ濕土ニテ寒  
氣甚タシ人ノ住居ス可キ里ニアラサレハ群臣遷  
都ノ議ヲ止ル者多シト雖ル帝コレヲ聞カス兵馬  
混乱ノ際ニ大土工ヲ興シ其工未タ半ニ至ラス屢  
瑞典ノ寇アリテ魯ノ兵利アラズ千七百七年カ  
シノ戰ニテ魯ノ將軍メンチコフ始テ一勝利ヲ得  
タルノミ○魯瑞ノ兵ヲ交ルル既ニ久シ佛蘭西政

府其間ニ居テ讐ヲ解カントシ屢瑞典ニ書ヲ贈タ  
レ氏瑞典王チャールスハ既ニ決心シ必ス魯西亞ノ  
首府モスコフノ城下ニ至テ魯君ト盟ハントテ佛  
蘭西ノ説ニ從ハスペイトルコレヲ聞キ突テ云ク  
チャールスハ歴山王ノ事ヲ行ハントスレハ獨リダ  
リウスナキヲ如何セントヤタリウスハ往古ニ滅  
サレタ千七百七年第八月瑞典王チャールス四萬五  
千兵ヲ卒ニ大舉シテ魯ニ入ル前ニナルソノ戰  
ニハ八千ノ兵ニ向テ敗走シタル魯人ナレハチャ  
ールスコレヲ蔑視スルヲ甚ダシク自カラ謂ラク



我一鞭ヲ以テ魯人ヲモスコイノ外ニ驅逐スルノ  
 ミナラズ天地ノ間ニ其處ヲ得セシメザル可シト  
 テ先ツデレスデンヨリ侵入シポーランドヲ經テ  
 翌年第二月ゴロノドニ至レリ魯西亞西境地ナリペイト  
 ル帝ハ邊境ノ人民ヲシテ内地ニ退カシメ滿ヲ持  
 シテ敵ノ至ルヲ待ツノ勢アレヒチャーレスコレヲ  
 意トセズ益進テ後ヲ顧ミヌ次第ニ深入スルニ從  
 ヒ地理ヲ辨セス方向ヲ知ラス山林ノ間ニハ路ニ  
 迷ヒ河澤ヲ渡ラントシテ大砲ヲ失フ等其危難少  
 ナカラズ未タ敵ニ逢ハズシテ損スル所既ニ甚タ

シ漸ク時日ヲ經ルニ從ヒ食料モ亦乏シクシテ糧  
 ニ敵ニ藉ラントスレヒ魯人ハ早ク既ニ其地ヲ拂  
 テ内地ニ退キタレハ糧食ノ掠ム可キモノナク家  
 屋ノ舎ヌ可キモノナシ蓋シ魯人得意ノ策略ニ臨  
 リタルナリ此後百年佛帝第一世ナポレオンガ魯  
コイノ都府ヲ西亞ニ攻入シモ魯人ハ自カラモス  
兵コレガタノニ竅メテ退キ佛初メチャーレスハ  
直ニモスコイニ入ラントスルノ目的ナリシガ冬  
 ニ至ルマデ未タ決戦ノ機會ヲ得ヌ寒氣漸ク迫テ  
 兵士ノ苦シムヲ甚タシキヲ以テ乃チ其策ヲ變シ  
 先ツポルトロン城モスコイノ南四ヲ拔テ城中ノ

西澤書二編 卷之二 十四



衣食ヲ取り春大雪解ルヲ待テ事ヲ謀ラントテド  
ニフルノ河ヲ渡テガダチニ陣セリコノ時ニ至テ  
兵士ノ飢寒ニ死セル者既ニ甚タ多シペイトル竊  
ニ喜テ云ク時至レリト乃チ兵ヲ出シテ防戦セシ  
メ互ニ勝敗アリ第六月中旬自カラ精兵七萬人ヲ  
卒ヒテボルスケラ<sup>ドニプル</sup>河ノ支流ノ河畔ニ陣セリ魯瑞  
ノ兵衆寡既ニ敵セス加之<sup>チャーレス</sup>ハ數日前其股  
ニ疵ケテ自カラ指揮スルヲ能ハス其兩將<sup>レンス</sup>  
コルド<sup>及ヒレ</sup>イエンホープトニ事ヲ任シタレ  
号令一ニ出テス兵士ノ進退意ノ如クナラス唯一

戦ヲ以テ勝敗ヲ決シチャーレスハ僅カニ數人ヲ從  
ヘテ土耳其ニ遁レ將士兵卒魯ノ軍門ニ降ル者一  
万八千人コレヲポルトロノ戦争ト云フ于時千七  
百九年第七月八日ナリチャーレス土耳其ニ遁レテ  
留ルト五年土ノ大臣ニ説キ屢兵ヲ起シテ魯西亞  
ヲ攻メタレ其志遂ニ成ラス○ペイトル帝ハポ  
ルトロノ一戦ヲ以テ外患ヲ除キ爾後ハ意ヲ專ラ  
ニシテ國內ノ事務ヲ脩メ新都<sup>ペイトルス</sup>ボルフ  
ニ防禦ノ備ヲ設ケ造船局ヲ建テ船艦ヲ造リ波戸  
場<sup>バ</sup>ヲ築キ港ヲ浚ヘカメテ貿易ノ道ヲ開カレトシ



土木ノ工ニ四万ノ役夫ヲ用ヒタリト云フ千七百  
十三年政府ノ官吏ヲモスコリヨリ新都ニ移シ千  
七百十五年ニ至テ帝宮落成遷都ノ事始テ成レリ  
翌年皇妃カタリナト共ニ歐羅巴諸國ニ遊ヒ和蘭  
ノサールダムニ至レハ十八年前寓居ノ家依然ト  
シテ存在セリ昔日ハ單身獨歩ノ船匠今日ハ一國  
至尊ノ皇帝知己用友ヲ會シテ舊ヲ話シ皆感涙ヲ  
垂レサルモノナシ其景况恰モ錦ヲ衣テ故郷ニ歸  
ルカ如シ佛蘭西ニ至ル所モ政府ノ待遇甚々厚シ  
逗留ノ間夥シク書籍器械ヲ購テ携歸リシト云フ

○魯西亞ト瑞典トノ不和ナルヲ年既ニ久シ千七  
百十八年瑞典王チャールス死シテ漸ク平和ニ復シ  
千七百二十一年ナイステットニ於テ和約ヲ結ヒ瑞  
典東境ノ地ヲ割テ魯西亞ニ與ヘ兩國ノ好始テ相  
通セリ○爾後ペイトルハ富國ノ策ニ心ヲ用ヒ都  
府ノ街道ヲ補理シ通船ノ川ヲ堀リ製造局ヲ建テ  
物産ノ法ヲ勵マシ尺度秤量ヲ平均シ裁判刑法ヲ  
正タシ學校ヲ開キ病院ヲ建テ千七百二十三年ニ  
ハ首府ペイトルスボルフニ大學校ノ基本ヲ起セ  
リ又政府官吏ノ人情ヲ和ラケ風儀ヲ脩メシメン



カ為貴族ノ少年輩ヲシテ其妻ト共ニ歐羅巴西方  
ノ諸國ニ遊歴セントヲ命シタリ○千七百二十二  
年ヨリ翌年ニ至ルマテ南ノ方ベルシヤヲ征伐シ  
テ裏海近傍ノ地ヲ并セリコレヲペイトル最後ノ  
師トス歸路病ヲ得テ久シク治セズ太子アレキシ  
ハ謀反ニ坐セラレテ獄ニ下リ千七百十八年既ニ  
獄中ニ死シタルヲ以テ皇妃カタリナニ位ヲ讓リ  
一年ヲ經テ千七百二十五年第二月八日ペイトル  
スボルフニ崩セリ齡五十二在位四十三年ナリ○  
ペイトル帝諸方ニ遊歴シテ家ニ歸リシ後ハ出テ

ハ戦争ヲ事トシ入テハ國內ノ事務ヲ脩メ成學ニ  
暇アラスト雖ル魯國改革ノ實効ヲ見レハ其學業  
ノ所得ヲ證スルニ足レリ帝ハ常ニ朝第五時ニ起  
キ終日孜々トシテ寸暇ナシト雖ル夜ニ入り事ヲ  
終レハ火酒ノ甕邊ニ坐シテ獨リ大杯ヲ傾ケ人事  
不省ニ至ラサレハ止マズ天稟ノ性質猛劇ニシテ  
醉ニ乘スルルハ平生親愛スル所ノ者ト雖ルコレ  
ニ害ヲ加ルル敵ヲ御スルカ如シ帝常ニ云フ余ハ  
自國ノ過ヲ改メルレル未タ自身ノ過ヲ改ルル能  
ハスト帝ニ對シテ禮ヲ失スル者アレハ直ニコレ



ヲ鞭ヲ縉紳貴族ト雖<sub>レ</sub>嘗<sub>テ</sub>其罪ヲ假<sub>サ</sub>ス甚<sub>シ</sub>キ  
ハ皇妃カタリナモ鞭撻ヲ免<sub>カ</sub>レサリシト云<sub>フ</sub>姉  
ヲ捕<sub>ヘ</sub>子ヲ殺<sub>シ</sub>初<sub>メ</sub>縁ノ妃ヲ離<sub>レ</sub>別<sub>シ</sub>無<sub>辜</sub>ノ士族ヲ  
屠<sub>ル</sub>等其罪小<sub>ナ</sub>ラスト雖<sub>レ</sub>帝ノ榮名ハ常<sub>ニ</sub>諸帝  
王ニ冠<sub>タ</sub>リ蓋<sub>シ</sub>自國ノ富強ヲ謀<sub>リ</sub>人民ノ幸福ヲ  
致<sub>サ</sub>シガタメ千辛萬苦ヲ嘗<sub>メ</sub>タル者モ帝ノ如<sub>キ</sub>  
ハ亦甚<sub>タ</sub>稀ナルカ故<sub>ナ</sub>リ魯國歷代ノ諸君ヲ枚舉  
シ國ノ為<sub>ニ</sub>善ヲ施<sub>シ</sub>タル實功ヲ論<sub>ス</sub>レハペイト  
ル以前<sub>ニ</sub>ペイトルナシペイトル以後<sub>ニ</sub>ペイトルナシ  
實<sub>ニ</sub>空前絶後ノ英主ト稱<sub>ス</sub>可<sub>シ</sub>○女帝カタリナ

即位ノ後モ先帝ノ餘業ヲ繼<sub>キ</sub>老臣メンチコフ及  
ビルルリシト共<sub>ニ</sub>謀<sub>テ</sub>益國事ヲ理<sub>シ</sub>海陸軍ヲ  
盛大<sub>ニ</sub>シ稅額ヲ減<sub>シ</sub>派罪ノ人ヲシベリヤヨリ呼  
返<sub>シ</sub>テ專<sub>ラ</sub>寬位ノ趣意ヲ示<sub>シ</sub>填地利ト和<sub>シ</sub>テ外  
患ヲ防<sub>キ</sub>支那ニ使節ヲ遣<sub>テ</sub>貿易ノ約ヲ結<sub>ヒ</sub>タリ  
清ノ雍正年中カタリナ在位二年ニシテ死<sub>シ</sub>遺言シテ  
第一世<sub>ニ</sub>ペイトル帝ノ孫ニ位ヲ傳<sub>ヘ</sub>リ年甫<sub>テ</sub>十一  
歳ナリコレヲ第二世<sub>ニ</sub>ペイトルトス幼君輔佐ノ諸  
大臣ヲ命<sub>シ</sub>タレ<sub>レ</sub>唯其名ヲ存<sub>ス</sub>ルノミ實事ノ權  
柄ハメンチコフノ手ニ在<sub>リ</sub>テ内外ノ事其裁斷ヲ



仰カサルモノナカリシカ内議ノ大臣トルゴロキ  
 ト權ヲ争ヒ罪ヲ得テシベリヤニ謫セラレタリ千  
 七百三十年幼帝痘瘡ニ罹テ俄ニ死シ乃チコルラ  
 シド公ノ夫人アンナヲ奉シテ女帝ト爲セリアン  
 ナハ第一世ペイトルノ異母兄イワンノ女ナリア  
 シナ帝即位ノ初メ國內ノ士族帝室ノ勢ヲ殺ヒテ  
 權ヲ分タシテ企テタレト帝ノ英斷ヲ以テ其隱  
 謀ヲ破リトルゴロキ等ノ諸大臣ヲ退ケ内議ノ官  
 ヲ廢シテ廟堂執政官ノ体裁ヲ一新セリ千七百三  
 十一年キルジースノ地ヲ并セ支那ノ西次テ又シ裏海ノ東

ベリヤノ地方ヲ盡ク并吞シテ北東ノ海濱ニ達シ  
 アルトシヤン及ヒベリングノ諸島ヲ發見スルニ至  
 レリ北亞米利加トノ間ニアリ千七百四十年アン  
 ナ死ス其姪孫第七世イワン生レテ未タ期年ニ滿  
 タス立テ即位ノ禮ヲ行ヒ寵臣コルランド公ヲ  
 以テ後見ノ職ニ任シタリ盡ク皆先帝アンナノ遺  
 命ナリイワン即位ノ後一年ニシテ第一世ペイト  
 ル帝ノ女エリサベスペイトロウナ兵ヲ舉テ幼君  
 ヲ廢シ自立シテ帝ト稱ス同年瑞典ト戰テコレニ  
 勝チヒンランドノ地ヲ并セリコノ時ニ至テ魯西



西の法律漸ク寛大ニ赴キ死刑ヲ廢シ慘酷ナル鞠  
問ノ法ヲ止メタリ又エリサベスハ文學ニ心ヲ用  
ヒ諸都府ニ大學校ヲ設ケテ一國ノ文化次第ニ隆  
盛ニ赴ケリ千七百六十二年エリサベス死シ姉ノ  
子位ヲ繼クコレヲ第三世ペイトルトス在位數月  
ニシテ内亂ヲ生シ帝ノ位ヲ廢シテ遂ニコレヲ毒  
殺セリ蓋シ皇妃カタリナノ隱謀ナリペイトル位  
ヲ廢セラレ皇妃コレニ代ル即第二世カタリナ  
リカタリナハ君夫ヲ弑スルノ大罪ヲ犯スト雖天稟  
治國ノ才幹アリ寡立ノ後ハ專テ國事ニ意ヲ

用ヒ自國ノ富強ヲ謀ルニハ外國ト和スルノ急務  
ナルヲ知テ七年ノ師ニ關係セル兵ヲ解キ外ヲ顧  
ミズシテ内ヲ治ルノ策ヲ施セリコノ時ニ當テ魯  
西亞ノ朝廷ニハ人物多ク文武ノ官皆其人ヲ得テ  
兵備益整ヒ文教愈脩リ歐羅巴洲内ニテ大國ノ列  
ニ加ハリコレヲ恐レサルモノナシ千七百七十二  
年ヨリ千七百九十五年ニ至ルマテノ間ニポ  
ランドノ人ヲ煽動シテ内亂ヲ生セシメ亂ニ乘シ  
テ其國土三分ノ二ヲ魯西亞ニ并セ又土耳其ト戰  
テ屢勝テ黑海ノ北岸ハ盡ク魯ノ版圖ニ歸シタリ



千七百八十三年ニハゼヲロジヤノ地方黒海トノ間ニ  
 リモ魯西亞ノ保護ヲ仰キ千七百九十三年ニハ  
 セフル日耳曼北方ノ地ヲ并セ千七百九十五年ニハク  
 ルランドモ屬國ト為レリカタリナ在位ノ  
 間ニ土地ヲ開クヲ二十二萬五千里方人口數百萬  
 ヲ増シ又南方豊饒ノ地ニハ外國ヨリ家ヲ移シテ  
 来リ住スル者アリ其數五萬人ヨリ多シ國內ノ諸  
 方ニ人民教育ノ學校ヲ設ケ貧人救助ノ法ヲ立テ  
 貿易ヲ廣クシ航海ヲ盛ニシ農ヲ勤メ工ヲ勵マシ  
 全國ノ製度更ニ一面目ヲ改メ千七百六十六年新

法ヲ議スル為諸州ヨリ名代ノ議人ヲ召シタル  
 アリ魯西亞ノ政治ニハ古來未曾有ノ舉動ト稱ス  
 可シ千七百九十六年カタリナ死シ太子立  
 ツコレヲ第一世ポールトスポール帝ノ即位ハ正  
 ニ佛蘭西騷亂ノ時ニ當リ全歐羅巴洲ニ于テ動カ  
 サル所ナシポール帝ハ英吉利イストリヤ地子イブル土  
 耳古ト連合シテ佛蘭西ニ敵シ千七百九十九年三  
 大軍ヲ出ダシテ佛蘭西ヲ伐タシメタリコノ出師  
 ニ於テ魯ノ將軍ソコロフ其軍略ヲ逞フシテ英名  
 ヲ諸邦ニ轟カシ本國ノ聲價モコレガ為一陪セリ



ト云フ爾後魯西亞ハ連合ノ諸國ト不和ヲ生シテ  
 兵ヲ引キ連國デキマレク及ヒ瑞典スウェーデント結約シテ局外中立ヲ守  
 リ或ハ竊ニ佛蘭西ヲ助ルノ勢アリシガ英吉利及  
 ヒ奧地利ノ政府ヨリ反間ヲ放チ魯西亞ノ貴族ヲ  
 煽惑シテ國內ノ乱ヲ釀成シ且ポール帝モ輓近強  
 暴ヲ恣ニシテ人心ヲ失ヘルヲ以テ二三ノ貴族相  
 謀テ帝ヲ暗殺セリ于時千八百一年第三月二十三  
 日ナリポール帝死シテ後太子アレキサンドル位  
 ニ即キ漸ク内乱ヲ治メテ平和ニ復シタリ即位ノ  
 後又奧地利英吉利瑞典及ヒ子イブル諸國ト連

合シテ佛蘭西ニ敵シ千八百五年將軍「ゴトソフ」大  
 兵ヲ卒ヒテモラビヤ奧地利ニ進ミ奧ノ兵ト合シ  
 テ佛軍トオーストルリチニ戰テ敗走シ千八百七  
 年第二月「アイロ」ノ戰ニハ勝敗相半シタレモ同  
 年第六月十四日「フリードラ」ノ血戰ニ大敗ヲ  
 取リ止ヲ得スシテ和ヲ乞ヒ「アイヲニヤン」ノ諸島  
 地中海ギリキ及ヒ「ゼタル」ノ地ヲ割テ佛蘭西ニ  
 與ヘリ既ニ佛蘭西ニ和スレハ英吉利ニ親睦ヲ破  
 ラサルヲ得ス英人コレヲ憤テ魯西亞ノ貿易ニ害  
 ヲ加ルト甚タ大ナリ且瑞典王第四世「ゴスター」



モ魯西亞ト連合セシ故ヲ以テ其位ヲ失ヒ其國ヲ  
亡シタレバ是亦魯ノ敵ナリ然レモ魯西亞帝ハ獨  
リナポレヲント信ヲ通シ世變ニ乘シテ諸方ノ地  
ヲ并吞シ嘗テ他國ノ利害ヲ顧ルコトナシ斯ノ如ク  
スルコト五年ニシテ千八百十年ニ至リ魯佛ノ和親  
復タ破レリ其由縁ハ佛蘭西帝ポリアンドノ政府  
ヲ起サントセシニ付キ魯人コレヲ拒テ條約ヲ破  
リタルナリ千八百十二年佛蘭西帝ナポレオン五  
十萬ノ大軍ヲ卒ヒテ魯西亞ヲ攻メ普魯士伊太里  
サクロニア一等ノ諸王モ皆出兵シテ佛軍ニ從ヒ第

九月七日モスコハニ血戰シテ大ニ魯西亞ノ守兵  
ヲ破リ尚進テ其舊都モスコトニ入リシキ魯人自  
カラ火ヲ放テ都府ヲ燒キ深ク内地ニ退キタルヲ  
以テ佛ノ兵食料ヲ得ス飢寒ノ爲ニ命ヲ落スモノ  
十ニ八九ナポレヲン殘兵ヲ引テ歸ル爾後佛ノ兵  
威復タ振ハス遂ニ千八百十五年ニ至リワットル  
ロノ一戰ニテナポレオンハシントヘレナ嶋ニ  
派サレタリ同年歐羅巴諸國ノ使節井シナニ會シ  
千八百十八年ニハアキストラシヤベルニ同盟シテ各  
國五ニ和約ヲ結ヒ魯西亞ノ威名特ニ赫々タリ○

西洋事情一編



此時ニ當テ歐羅巴諸邦ニ衆庶會議ノ政論ヲ主張  
スル者ト君主特權ノ說ニ左祖スル者ト議論相分  
レ魯西亞帝ハ固ヨリ特權ノ說ヲ執テ動カサレ  
亦國內ノ開化ヲ懈ラス專ラ富強ノ術ヲ施シ宗旨  
ヲ改革シ下民ノ教育ヲ勵マシ風俗次第ニ敦ク人  
口日ニ繁殖シ日耳曼ヨリ家ヲ移シテ住スル者モ  
千ヲ以テ計フト云フ千八百二十五年アレキサン  
ドル死シ其弟位ニ即クコレヲ第一世ニコラリス  
トスコレヨリ先キ陸軍ノ兵士ニ不平ヲ抱クモノ  
多ク國中一般既ニ反亂ノ萌シアリシガ國喪ニ乘

シテ事ヲ發シタレハ新帝ノ勇力直ニコレヲ制壓  
シ其首魁ヲ捕ヘテ或ハ殺シ或ハ流シ事速ニ平定  
セリヘルシヤノ政府モ魯君ノ死ヲ聞テ叛キシヲ  
以テ將軍パスケウツナヲ遣リ伐テコレニ勝テ裏  
海近傍ノ地ヲ取り八千萬ル<sup>一</sup>ブルノ償金ヲ促シ  
テ其罪ヲ免セリ<sup>一</sup>ル<sup>一</sup>分<sup>一</sup>五<sup>一</sup>厘<sup>一</sup>ハ<sup>一</sup>三<sup>一</sup>十<sup>一</sup>八<sup>一</sup>千<sup>一</sup>八<sup>一</sup>百<sup>一</sup>二十  
八年土耳其ヲ攻テ亦コレニ勝テ翌年和ヲ講シテ  
ダニウブ河畔ノ數城ヲ取り巨萬ノ償金ヲ出サシ  
メリ千八百三十年ポーランドノ人兵ヲ擧テ其國  
ノ獨立ヲ恢復セントシタレハ魯帝ノ威力ニ勝タ



ス千八百三十二年魯西亞ノ政府ニテ法令ヲ下タ  
シ以後<sup>ポランド</sup>ハ魯國內諸州ノ列ニ加ヘ其議  
事負ヲ廢シ其兵備ヲ止メ其人民ヲシテ次第ニ魯  
國ノ風俗ニ化セシム可シトノ旨ヲ布告セリ此他  
數十百年ノ間魯西亞ニ并吞シタル土地甚メ廣ク  
シテ其人民ノ風俗各處ニ相異ナルヲ以テコレヲ  
一致セシメンガ爲近來ハ頗ニ魯西亞ノ國語ヲ弘  
メ寺院ヲ建立シテ人ヲ教化セリ千八百五十三年  
宗旨ノ事ニ付キ土耳其ニ使節ヲ遣リ魯國政府ヨ  
リ請求スル所ノ趣意ヲ述ヘシニ土耳其ノ人コレ

ニ從ハス遂ニ兩國ノ和親ヲ破リ同年第七月魯西  
亞ノ大軍土耳其ノ北境ヨリ侵入シテ遂ニハ土ノ  
政府ヲモ倒サントスルノ勢アリ英佛ノ政府コレ  
ヲ見テ黙止スルヲ得ス魯ヲシテ土耳其ニ勝タシ  
メナハ歐羅巴諸國ノ間ニ威力ノ平均ヲ失ヒ禍必  
ス自國ニ及ハントテ乃チ兵ヲ起シテ土耳其ヲ助  
ケ數年ノ大戦争ト爲レリコレヲセバストボルノ  
戰ト云フ魯西亞ハ英佛土ノ三大國ニ敵シテ兵ヲ  
交ヘ水陸ノ戦争互ニ勝敗アリ事未タ終ラズシテ  
千八百五十六年第三月魯帝ニコラース死シ太子



第二世アレキサンドル位ニ即キ始テ英佛ト和ヲ  
 結ヒタリコノ戰ニ於テ魯西亞ハ僅カニベスサラ  
 ヒヤノ小地ヲ失ヒ黑海ニ海軍ヲ專ラニスルノ權  
 ヲ落シタレト英佛ノ兵モ亦所失多シト云フ千八  
 百五十八年ヨリ千八百六十年ニ至ルマテノ間ニ  
 日本及ヒ支那ト貿易ノ條約ヲ結ヒ爾後支那政府  
 ヲヨリ滿州ノ地ヲ取り黑龍江ノ近傍盡ク魯西亞ノ  
 版圖ニ歸シタリ○古來魯西亞ハ四鄰ノ地ヲ蠶食  
 シテ境界ヲ開クヲ以テ國政ノ趣意トシ歷代其策  
 ヲ勉テ懈ラズ左ノ表ハ年代ニ從ヒ領地ノ廣サヲ

示スモノナリ	方一里ヲ一坪ト爲シタル數
千四百六十二年	三十九萬四千
千五百五年	七十九萬二千
千五百八十四年	二百六十七萬六千
千六百四十五年	五百四十二萬七千
千六百八十九年	五百六十三萬
千七百二十五年	五百八十四萬一千
千七百六十三年	六百八十一萬六千
千八百二十五年	七百零五萬



東洋情二編 卷之二

千八百三十七年七百五十萬

千八百五十五年七百八十二萬一千五百四十六

北亞米利加ニアル三十九萬四千方里ノ領地ハ千

八百六十七年第六月二十日ノ條約ニテ合衆國政

府ニ賣渡シタリ其價七百二十萬ドルナルナリト

云フ

政治

魯西亞ニ於テハ生殺與奪ノ權柄帝ノ一手ニ在リ  
固ヨリ古來ノ流風ニ從ヒ各等ノ人ニ其身分ヲ許  
シ安ニ人心ニ戾ルヲ得スト雖此法ヲ以テ論スレ

ハ帝ノ權威ニハ分限ナク帝ノ存意ハ即チ國ノ法

ナリ千八百十一年第一世アレキサンドル新令ヲ

下タシテ魯西亞ノ國法ハ帝位ヨリモ貴シトシ旨

ヲ布告シセテ下ニ詳官負ナリヲシテ忌諱ナク建

言セシメ天子ノ詔ト雖此コレヲ論破スベキ權ヲ

許シタルニ其名アリテ其實ナク此新令ヲ以テ未

タ魯君ノ特權ヲ制スルニ足ラス抑モ方今魯西亞

ノ形勢ヲ察スルニ今ノ政躰ヲ廢シナハ他ニ採用

ス可キ策略ナカル可シ即チ今ノ政躰ハ下民一般

ノ悅フ所ナレハ其民心ニ反シテ政ヲ施ス可ラサ

西洋情二編 卷之二



ルハ固ヨリ論ヲ俟タズ且國民ノ爲ニ謀リテモ政  
治一途ニ出テ、威權赫々タルニ非サレハ其開化  
ヲ進メ其安全ヲ保スルノ術ナシ無數ノ群民産ナ  
ク知ナク又威力ナシ此小民ヲ支配スル政府ニシ  
テ其政權ヲ國內ノ貴族等ニ分タハ民ノ暴政ニ苦  
シム今日ニ百陪シ遂ニハポ<sup>ラ</sup>ランドノ轍ヲ踏  
テ國ヲ亡ス<sup>ト</sup>必セリ右ノ如ク國帝ノ權威特ニ盛  
ナリト雖上下共ニ其所ヲ失ハス開化日ニ進  
文明月ニ新ニシテ文學技藝ノ士君子次第ニ増加  
セリ帝ノ恐ル、所ノ者ハ唯貴族ニシテ下民ニ非

ラス下民ハ常ニ帝ヲ尊フ<sup>ト</sup>神ノ如シ千八百六十  
二年ヨリ六十五年ニ至ルマテ<sup>イ</sup>間ニ國內賣奴ノ  
法ヲ廢シタルモ小民ノ悦フ所ニシテ貴族等ハコ  
レガ爲大ニ權ヲ落セリ今日ノ事情ヲ以テ考ルニ  
魯西亞ノ如キ國ヲ治ルニハ唯文明開化ノ特權ヲ  
盛ニスルノ一策ニ在ル<sup>ニ</sup>今魯西亞ニ於テ遽ニ  
衆庶會議ノ政ヲ施サントスルモ名ハ衆庶ニシテ  
實ハ衆庶ナラス徒ニ無用ノ人ニ無用ノ權威ヲ附  
與シ國ノ爲ニ益ナキ<sup>ト</sup>猶英吉利ニ於テ君上特權  
ノ政ヲ行フガ如クナル可シ

文明開化ノ特權ヲ以テ下  
君上ノ特權ヲ以テ下



民ヲ保護シコレテ文明ニ導テ脩徳開知ノ趣意ヲ  
 知ラシメ強ク抑ハ弱小ヲ揚ケ人々ヲシテ獨立  
 不羈ナラシムルヲ云フ支那人ノ口吻ニ云ハル如ク之ニ  
 由ラシメ之ヲ知ラシムル土芥ノ如ク權謀術數以テ下民  
 ヲ愚シ民ヲ視ルハ非テ是即チ魯西亞ト君上ノ如ク之ニ  
 府ノ威光ヲ張ルカハ非テ是即チ魯西亞ト君上ノ如ク之ニ  
 ト其風俗相同シカハ非テ是即チ魯西亞ト君上ノ如ク之ニ  
 乎

魯西亞ノ政務ハ四大官ニ分チ其中心ハ帝室ニ在  
 リテ一切萬機帝ノ親裁ニ由ラサルモノナシ每事  
 其議ヲ始ルモノハ帝ナリ每事其議ヲ終ルモノモ  
 亦帝ナリ故ニ魯西亞ノ帝タル者ハ其事務極テ煩  
 ハシク其任極テ重シ右四大官各其局ヲ異ニスル

凡職務ノ區別或ハ判然ナラサルト多シ其順序左  
 ノ如シ

第一等太政官ハ千八百十年ニ改革シタルモノニ  
 テ閣老一名其以下ノ大臣ニハ定負ナシ千八百六  
 十六年ノ頃ニハ其官負三十九名アリ事務執政及  
 帝家ノ子弟モ太政官ニ出席スルノ權アリ太政  
 官ヲ五局ニ分ツ議政軍務常務會計人民教育是ナ  
 リ太政官ノ職掌ハ國內一般ノ政務ヲ監督シ行政  
 ノ正否ヲ察シ法度ノ改革ヲ建言スル等萬機ニ關  
 係セサルコトナシ



第二等ノ政官ヲセチト云フ千七百十一年第一世ベイトル帝ノ定メシ官ニテ其威權最モ重シ議政為政ノ兩様ニ關係シテ斷獄ノ上位ニ居リ國中ノ裁判所ヲ支配セリ其官負ハ帝ノ命ヲ以テ選舉シ現今官ニ在ル者一百人一歳ノ給料七千ル一ブルニ分テ五厘ニ當ルセチトテ八局ニ分テ五局ハ首府ベイトルスボルフニ在リ三局ハ舊都モスコニ在リ各局訟ヲ聽キ獄ヲ斷スルノ全權アレバ時トシテ其裁判ニ服セサルキハ帝ニ越訴スルモ妨ナシ此官負ハ大抵皆高位ノ人ナレバ每

局必ス有名ノ訟師一人ヲ選ヒ帝ノ名代トシテ長官ノ位ニ立テ此長官ノ簽印ナケレバ事ヲ決ス可ラス又セチトテ官ハ聽訟斷獄ヲ司トルノ外ニ國用ノ出納ヲ檢點シ公務ノ不正ヲ糾問シ國帝ニ諫争スルノ權アリ局内ノ事務ハ毎月新聞紙ニ記シテ布告スルヲ例トス  
第三等ヲ寺院官トス國內宗門ノ事ヲ司トル其官負ハ寺院ノ大僧ナレバ皆天子ノ命ヲ以テ事務ヲ處シ救許ヲ得サレハ事ヲ決スルヲ得ス  
第四等ハ執政官ナリコレヲ十二局ニ分ツ其順序



左ノ如シ

第一宮内事務執政

第二外國事務執政

第三兵馬事務執政

第四海軍事務執政

第五内國事務執政

第六教育事務執政

第七會計事務執政

第八刑法事務執政

第九王土事務執政

國帝私有ノ土地ヲ支配スルモノナリ

第十營繕事務執政

第十一飛脚場事務執政

第十二監察事務執政

右諸局ノ執政一人ノ外ニ參政ナルモノアリテ執政ノ病氣又ハ不在ノ時ニ本務ヲ助ク○執政官ハ直ニ帝ニ接シ或ハ帝室ニ出入シテ事ヲ謀ルノ權アリ但シ帝室ハ制度法律ノ令ヲ出タス本源ニシテ室内ヲ四局ニ分チ第一局ハ他ノ二局ヲ監督シテ直ニ帝ニ接スルノ權アリ第二局ハ議政ノ事務ヲ司トリ第三局ハ軍務并ニ機密ノ政ニ關係シ第



四局ハ人民ノ教育寺院ノ事務ヲ支配ス  
國內諸州ノ政ハ其處ニ隨テ一様ナラス蓋シ古來  
諸方ノ地ヲ并吞セシキ其土地從來ノ舊法風俗ヲ  
察シ魯ノ本政府ニ害ナキモノハコレヲ存シタル  
ガ故ナリ  
國內總奉行ノ支配十四所奉行ノ支配五十一所ノ  
外ニ三百二十州アリ此他曠漠ノ地ハ多シト雖  
民戸稀ナルカ故ニ未タ州郡ノ名ヲ下タサス○惣  
奉行ハ帝ノ名代ニシテ其管轄ノ地ニ於テハ文武  
ノ事務ヲ總ベ号令ヲ施スヲ君上ニ異ナラス配下

ノ官吏ハ其命ヲ受ケ每事裁判ヲ仰カサルモノナ  
シ○奉行ハ又總奉行ノ名代ト為テ各其支配所ニ  
居リ惣奉行ノ命ヲ奉シテ事ヲ行フ其事務ニ決シ  
難キコトアルカハ假ニ奉行ノ獨斷ヲ以テ處置シ其  
後改テ帝ノ親裁ヲ願フヲ例トス副奉行ハ奉行ノ  
不在又ハ病氣ノカニ本官ヲ勤ルモノナリ奉行管  
轄ノ地ニハ必ス會計局ヲ立テ國帝私有ノ地ヲ支  
配シテ貢稅ヲ収ム其長官ハ即チ副奉行ナリ又賑  
給局ナルモノアリ此局ノ職務ハ救窮ノ法ヲ監督  
シ牢獄製造局ヲ支配シ貧民教育ノ學校ヲ指揮ス



又醫局アリテ人民一般ノ養生ニ注意シ管轄内諸州ノ醫師ニ命シテ医薬ノ良否ヲ糾ス○諸州ニモ各其土地在住ノ官吏アリ諸邑ニハ私ノ會議アリテ邑人ノ内ヨリ人物ヲ選舉シテ議負ト爲ス又每一邑政府ヨリ長官一名ヲ命シテ邑内ノ取締ヲ爲シ公用ノ倉庫ヲ守リ刑獄ノ事ヲ司トラシム魯西亞ノ裁判刑法ハ極テ煩雜ニシテ自國ノ人ニ非サレハ其詳ナルヲ知ル者ナシ裁判ノヲニ就テハ魯國獨裁ノ政ニ不可思議ト稱ス可キ事アリ諸方ノ裁判局ニ在テ刑法ヲ司トル官員其半ハ政

府ヨリ命スル者ニ非ラズシテ士民ノ選舉シタル人物ナリ譬ヘハ一州ノ裁判所ニテ刑法官一名書記官一名ハ政府ヨリ命スル者ニテ外ニ二名ノ助役ハ貴族コレヲ選舉シ又二名ハ農民コレヲ選舉ス蓋シ魯西亞ノ國法ニ於テ訟ヲ聽ク吏人ノ中ニハ必ス其訴訟スル者ト同種同格ノ人物ナカル可ラストノ趣旨ナリ往昔ハ刑法官ノ給料甚々少ナカリシガ第二世カタリナ帝ノ世ニ至テコレヲ増シタレハ官吏ノ風俗甚々冝シカラズ賄賂公行錢ヲ投スレバ裁判ヲ延バスト限ナク或ハ曲ヲ以テ



直ニ勝ツトモ亦得ベシ其後千八百二十六年ヨリ  
千八百三十三年ニ至ルマテノ間ニ屢法令ヲ布告  
シテ此惡弊漸ク除キタレド未タ十全ニ至ラス抑  
裁判ノ法ヲ改革シテ正ニ歸セシメントスルニハ  
先ツ吏人タル可キ者ヲ教ヘ其人物ヲ選ビ其給料  
ヲ多クシ且國中ノ民心ヲ斟酌シテ自由ニ議論ヲ  
發セシメ出版ノ法ヲ寬ニシテ著書ヲ盛ニシ其議  
論ヲ察シ其著書ヲ見テ顧テ刑法ヲ處スルノ外更  
ニ方便アルトナシ然ルニ魯西亞ニ於テハ民情未  
タ上ニ通ヤズ著書未タ自由ナラス國ノ一大欠典

ト云フ可シ天下何レノ國ニ於テモ裁判ノ官局ニ  
テ下民ノ私議ヲ恐レズ著書ノ譏詔ヲ憚カラサル  
キハ其吏人ハ所謂政府ノ器械ナルモノニテ其隱  
謀ヲ助ケ其詭計ヲ成シ上タル者ノ意ヲ悅ハシメ  
ンカ為<sup>ル</sup>ニハ不正不義ノ罪ト雖モ未タ嘗テコレヲ  
犯サ、ル<sup>ト</sup>ナシ  
魯西亞ノ人民ハ其階級ヲ四ニ分ツ曰ク貴族曰ク  
僧徒曰ク商賈曰ク農民ナリ  
第一貴族 魯西亞ノ貴族ハ往古小諸侯ノ後裔ニ  
シテ其門閥ニ附タル土地ヲ領シ永世爵祿ヲ保ツ



モノナリ第一世「ペイトル」帝國政ヲ改革セントス  
ル貴族等ノ悖逆不遜ナルヲ見テ深クコレヲ患  
ヒ舊弊ヲ一變シテ其權柄ヲ奪ハンガ爲新ニ貴族  
ヲ命スルノ法ヲ立テ凡ソ國政ニ關係スル文武ノ  
官吏ヲ盡ク貴族ノ列ニ加ヘ國內ノ貴族新古ノ別  
ナク其爵位ヲ十四等ニ分テ上ノ八等ハ其爵ヲ世  
ニシ他ハ終身爵ヲ保ツモノアリ或ハ唯士族ト唱  
フルモノアリコレヲ改革ノ始トシ第二世「カタリ  
ナ」ノ時ニモ新令ヲ下タシタレ其大意ハ「ペイト  
ル」ノ法ニ異ナラス

魯西亞政府ノ公報ニ據レハ國內ノ貴族七十萬人  
其内六十萬人ハ爵祿ヲ世ニスルモノナリト云フ  
○貴族ノ家ニ生レタル者ハ其子弟ト雖モ貴族ノ  
爵位ヲ受ル主人ニ異ナラス貴族ニ列スル者ハ  
一身ノ國役ヲ免カレ兵卒ノ籍ヲ脱シ刑罰其身體  
ニ及ハス鞭撻ヲ免カル、等自家ニ用ル火酒ヲ蒸  
溜スルノ權アリ領地ノ金石ヲ堀ルノ權アリ產物  
ヲ製スルノ權アリ貿易ヲ行フノ權アリ  
魯西亞ノ貴族ハ罪アリテ其家業ヲ没入スルモコ  
レヲ官ニ收メスシテ家族ニ分與スルヲ法トス又



貴族ハ私ニ吏人ヲ命シテ其領内ノ事ヲ治メシム  
ルノ權アリ或ハ又一州ノ貴族等互ニ集會シテ私  
事ヲ議スルノ法アリ政府ノ官吏ト雖<sub>レ</sub>此集會ニ  
關係スルノ權ナシ  
魯西亞ノ貴族ヲ見テ其人物ヲ評スルハ甚々難シ  
概シテコレヲ論スレハ其學問華ニシテ實ナラス  
ト雖<sub>レ</sub>業ヲ成セル人物尠ナカラス英佛日耳曼ノ  
國語ニ通スル者等ハ甚々多シ就中諸方ニ遊歴シ  
タル者ハ禮儀ニ慣レテヨク人ヲ容レ好テ學者士  
君子ニ交ルノ風アリ固ヨリ其國ノ風俗ニテ驕奢

淫逸下位ノ人ヲ輕蔑シテ君子ノ体裁ヲ失スルノ  
惡弊ハ免カレ難ク英佛諸國ノ人ニ及ハサルニ似  
タレ<sub>レ</sub>反テ其内國ノ事情ヲ察スレハ魯西亞國中  
ニ於テ其貴族タル者ハ既ニ功名青雲ノ志ヲ脱却  
シ其交ル所ノ者ニ中等ノ人ナク私ノ領内ニ在テ  
使役スル所ノ者ハ盡ク一家ノ奴隸ナレハ自カラ  
其居ニ由テ其志ヲ移シ或ハ蠻野ノ餘臭ヲ掃除シ  
盡サ、ルモ亦理ナキニ非ラス唯其驚ク可キハ第  
一世<sub>ノ</sub>ペイトル帝ノ時代ヨリ今日ニ至ルマテ百有  
余年ノ間ニ其禮儀ヲ脩メ其知識ヲ開キ風俗ヲ一



新シテ今ノ景況ニ至レルノ一事ノミ豈コレヲ帝ノ遺徳ト云ハサル可ケンヤ

第二僧徒 魯西亜ノ僧徒二十七萬四千人ノ内二十五萬四千人ハギリキ教ノ宗門ナリ其妻子ヲ合スレハ全國僧徒ノ種類ニ屬スルモノ五十四萬人ニ下タラス此人數ハ盡ク分頭税ヲ免カレ罪アルモ刑罰其身体ニ及ハス

第三商賈 此種類ハ貴族ト農民トノ間ニ位スルモノナリ在昔女帝カタリナノ世ニ詔ヲ下タシテ云ク商賈ハ貴族ニ非ラス亦農民ニ非ラス一種獨

立ノ者ナリ士ニ非ラス農ニ非ラスシテ學術ニ志シ航海ヲ事トシ商賣ヲ行フ者ハ商賈ノ種類タル可シ又平民ノ子ト雖モ朕及ヒ朕カ祖先ノ開キシ學校寺院等ニテ教育ヲ受タル者ハ商賈ノ種類タル可シ又士官及ヒ書記官ノ子弟モ商賈ノ種類タル可シ云 ○都テ國中ノ商人ハ皆此種類ニ屬シ其家産ノ大小ニ從テ商社ヲ結ヒ定額ノ税ヲ拂テ各其身分ニ特殊ノ權ヲ受ベシ ○又市民ト唱ル者ハ商賈ノ部類ニ屬シ農民ノ上ニ位スレモ商賈ト並立ツヲ得ス譬ヘハ商人ハ海陸ノ軍事ニ役セラ



ル、コナケレ氏市民ハ此後ヲ免カレス外國ヨリ  
家ヲ移シテ魯西亞ノ領内ニ來レル者又ハ國內ノ  
諸方ニ在テ田地ヲ所持シ自カラコレヲ耕ス者モ  
市民ノ格式ナリ方今魯西亞ニ此類ノ民凡三百萬  
人アリ

第四農民 古來魯西亞ノ農民ハ大半賣奴ノ法ヲ  
以テ人ニ養ハレ自カラ獨立ノ活計ヲ為スヲ得ス  
其政府ニ屬スル者二千一百萬人富豪貴族ニ屬ス  
ル者二千三百萬人貴族ノ家ニ養ハル、賣奴ノ父  
ハ家ノ貧富ニ從テ多寡アリ千八百六十一年賣奴

ヲ禁スルノ命ヲ下タシ千八百六十三年ヨリ其命  
ヲ施行シテ國中賣奴ノ法ヲ廢セリ奴主ノ損亡ヲ  
價フノ法左ノ如シ奴隸ヲ買ヒシ元金ニハ一年ニ  
六分ノ利息ヲ得ベキモノト定メ譬ヘハ賣奴一人  
ヲ役シテ毎年六ル魯西亞ノ貨幣我三十  
ハタニ分五厘ニ當ルブルヲ金ノ利息ニ積リ其元金トシ  
テ賣奴ヨリ百ルブルヲ主人ヘ拂ヒ永ク身諸ノ  
許ヲ得ベシ此百ルブルノ内即時ニ二十ルブルヲ  
以テ賣奴ヨリ出タサシメ残り八十ルブルハ政  
府ヨリ拂ヒ四十九年ノ期限ヲ以テ賣奴ヨリ政府



西の事情 卷之三  
へ返納ス可シトノ約条ヲ定メリ斯ノ如ク法ヲ立  
テタレト成ハ賣奴ト其主人トノ私談ニテ身請シ  
タル者モ亦甚タ多シ千八百六十三年政府ノ扶助  
ヲ以テ身請シタル賣奴ノ數ハ唯十萬六千四百九  
十七人ノミコレカ爲官庫ノ金ヲ費ス一一千一百  
四十五萬七千<sup>ル</sup>一ブルナリ然レト政府ハ此金ヲ  
一時ニ出ダサズ其半金ハ紙幣ヲ以テ拂ヒ半金ハ  
政府ノ借用トシテ利分ヲ與ルノミ千八百六十五  
年ノ記ニ據レハ新法益行ハレ魯西亞全國ノ内ニ  
賣奴ノ習俗既ニ絶タリト云フ

魯西亞ノ農民ハ骨格強固ニシテ身ノ大ケ中等ナ  
リ其家ハ木ヲ以テ造リ大抵二階ナルモノナシ日  
用ノ什器モ木製ノモノ多ク唯一二ノ皿アルノミ  
家内ニ卧床ヲ備ルモノ少ク夜ハ直ニ座ニ卧シ或  
ハ摺ヲ以テ卧床ノ代用ト爲シ又或ハ爐ニ據テ寢  
ル<sup>ル</sup>アリ其衣ハ粗ニシテ長シ冬ハ羊皮ヲ着テ寒  
ヲ防ク其股<sup>モ</sup>列<sup>ヒキ</sup>ハ粗布ヲ以テ製シ足袋ヲ用ル<sup>ル</sup>ナ  
ク毛布ヲ以テ足ヲ包ミ木皮ノ鞋ヲ以テ革靴ニ代  
用ス其食物ハ大麥ノ蒸餅ト菜葉ノ汁トヲ得レハ  
自カラ足レリトシ祝日ニ非サレハ肉類ヲ食フヲ



得ス鶏卵塩魚塩肉獸脂等ノ如キモコレヲ食フ  
甚々稀ナリ平生ノ食料ニ野菜ノ漬物多ク國中ノ  
人コレヲ貯ヘコレヲ賣買スルヲ甚々盛ナリ蓋シ  
魯人ノ專ラ野菜ヲ用ル由縁ヲ按スルニ國人ノ信  
心ニ僻スルヲ甚々シクシテ齊日ノ多キガ故ナリ  
人ノ言ニ云ク一歲三百六十日魯西亞人ノ齊日ハ  
三百日ニシテ肉ヲ食フ可キハ僅カニ六七十日ノ  
ミト其淫祀ニ惑溺スルヲ斯ノ如シ每室靈水ノ器  
ヲ天井ニ掛ケ室ノ隅ニハ神棚ヲ架シ燈ヲ供ヘテ  
守護神ヲ祭リ家族老幼ノ別ナク毎朝起レハ先ツ

コレヲ拜シ夜モ亦コレヲ拜シテ後ニ寢ニ就キ嘗  
テ懈タルヲナシ人ノ家ニ至ル片モ先ツ其神前ニ  
拜シテ後ニ家内ノ者ヘ挨拶スルヲ禮トス又魯西  
亞ノ小民ハ其地位ノ賤シキガ為道ル可ラザルノ  
惡風俗アリ其天稟ヨク艱苦ニ堪ヘ且ツ他ノ長ヲ  
取テコレニ倣フノオアレ氏自己ノ目的ヲ達スベ  
キ活發ノ勇ナシ權力アル人ニ逢ヒ其人ニ依頼シ  
テ自己ノ利益ヲ得ント思フ片ハ平身低頭シテコ  
レニ媚ヒ其醜体見ル可ラスト雖氏嘗テコレヲ耻  
トセズ既ニ金ヲ得レバ地ニ埋メテ貯ルヲ常トス



蓋シ私有ノ通義ヲ重ンゼザル國ニハ必ス行ハル  
、所ノ惡弊ナリ

魯西亞ニ於テハ人民教育ノ法未タ盛ナラス唯輓  
近五六十年以來漸ク進歩シタルノミ千八百二年  
アレキサンドル帝ノ世ニ詔ヲ下タシテ國內宜教  
ノ法ヲ設ケ學校ノ為ニ全國ヲ區分シテ每一區ニ  
大學校一所ヲ開キ其以下諸學校ノ數ハ區内ノ人  
負ト土地ノ廣狹トニ從テ多寡アリ此學校ノ内テ  
イシウムト唱ルモ、アリ少年ノ文官ニ志ス者ヲ  
集メテ教ル學校ナリ方今魯西亞全國ニ學校ノ區

分十所アレ氏區内ニ大學校アルモノハ唯五所ノ  
ミ千八百六十年ノ記ニ據レハ全國ニ大小學校ノ  
數八千九百三十七所生徒九十五萬人アリト云フ  
コレニ由テ算定スレハ國內ノ人口七十七人ニ付  
文ヲ學フ生徒一人ノ割合ナリ昔日魯西亞ニハ私  
塾ヲ開テ人ヲ教ル者甚タ多カリシガ政府ニテ種  
々ノ法ヲ設ケ官ノ學校ニ養ハレタル者ニ非サレ  
ハ仕官ヲ求メ難キ風俗トナリシヨリ以來私塾ノ  
教漸ク衰ヘタリ

海陸軍



魯西亞ニ於テ海陸軍ノ開ケタルハ第一世バイ  
ル帝ノ賜ニシテ其他一切ノ文明開化盡ク帝ノ功  
業ニアラザルハナシペイトル即位ノ前ハ全國內  
ニアルカンゼル港北方ノ名ヲ除キ一所ノ港ナク一隻  
ノ軍艦ナカリシガ帝ノ策略ヲ以テバルチック海ノ  
地位ヲ占メシヨリ今ノ首府ノ近傍瑞典ノ領地專  
ラ海軍ニ心ヲ用ヒ身躬カラ蘭英諸國ニ遊歴シテ  
海軍ノ學ヲ研究シ造船ノ術ヲ試驗シ始テ其基ヲ  
開キ爾後歴代先帝ノ餘業ヲ怠タラス第二世カタ  
リナ及ヒ今帝ノ世ニ至テハ殆ト盛大ノ勢ヲ極メ

タリ  
全國ノ海軍ヲ二大部ニ分チ一部ハバルチック海ニ  
備ヘ一部ハ黒海ニ備フ其艦隊ハ白旗隊青旗隊紅  
旗隊ニ分ツテ英ノ海軍ニ異ナラス蓋シ其初ハ和  
蘭ノ法ニ倣ヒシモノナリ舊式ニ據レハ三層艦一  
隻二層艦八隻フレガツト六隻コルヘツト一隻小艦四  
隻ヲ合シテ一艦隊ト為ス  
海軍ノ水夫モ陸兵ノ如ク賦役ヲ以テ命スルノ法  
ナレト大抵コレヲ強ユルヲナク人々ノ所好ニ從  
テ其人ヲ役スルヲ多シ在役ノ年限ハ舊ト二十一



年ナリシガ千八百五十九年ヨリ法ヲ改メ十四年  
 ヲ以テ期限ト定メリ  
 千八百六十八年第一月一日ノ公報ニ據レハ魯西  
 亞ノ海軍ニハ蒸氣船二百六十三隻帆前船二十九  
 隻アリ此數ノ内大半ハバルチック海ニ備ヘ其餘黒  
 海ニ備ルモノ四十一隻裏海ニ備ルモノ三十九隻  
 シベリヤノ東濱太平洋海ニ浮ヘルモノ三十隻歐羅  
 巴諸國ノ海岸ニ徘徊スルモノモ亦若干ノ數アリ  
 千八百六十二年第一月一日海軍事務執政ノ公報  
 ニ據レハ其時ニ當テ魯西亞ノ海軍左ノ如シ

	蒸氣	帆前
リーニ艦	九隻	十隻
フレガット艦	二十二隻	六隻
コルベット艦	二十四隻	三隻
ブリグ艦	十二隻	五隻
ゴンボート	八十五隻	二隻
スloop及ヒスクー子ル	九十六隻	三十六隻
共計	二百四十八隻	六十二隻

蒸氣帆前合シテ三百十隻コレニ備ル大砲ノ數三  
 千六百九十一門ナリ右ノ表ト千八百六十八年ノ



公報トラ比較スルニ帆前ノ數次第ニ減シテ蒸氣ノ數ハ次第ニ増加スレ氏其改革ノ遅キヲ知ル可シ  
千八百六十八年裝鉄艦ノ數二十四隻其種類左ノ如シ

フレガット	二隻
浮臺場	三隻
コルヘット	二隻
鉄塔艦	十一隻
モニートル	六隻

右二十四隻ノ鉄船へ備ル大砲ノ數百四十九門  
同年海軍水夫ノ數六萬零二百三十人士官三千七百九十一人此士負ノ内水師提督ノ數百十九人海軍ノ法則ハ都テ佛蘭西ノ風ニ倣ヘリト云フ

○  
魯西亞ノ陸軍ヲ二類ニ區別シ甲ヲ編成隊ト云ヒ乙ヲ武家隊ト云ヒ大ニ其体裁ヲ異ニセリ武家隊トハ「ゴサック」等ノ人種ニテ世祿ノ家ヨリ軍事ニ役スルモノナリ「ゴサック」トハ魯ノ南境黒海近傍ノ地ヲ納メス唯軍役ヲ編成隊ハ農工ヨリ其人ヲ募リ以テ勤ト為セリ



或ハ兵卒ノ子ヲ以テ兵卒ト爲シ或ハ自カテ好テ  
軍役ニ出ルモノアリ然レモ農工及ヒ兵卒ノ子ハ  
其骨格用ニ適シテ年齢ニ當レハ隨意ニ役ヲ免カ  
ル、ヲ得ス募兵ノ數ハ男子五百人ヨリ一二人ヲ  
取ルヲ法トスレモ戦争ノ代ハコレヲ増シテ五百  
人ヨリ二三人ヲ取り事急ナレハ四五人ヲ役スル  
コアリ但シ其負數ハ以前ノ版籍ニ由テコレヲ定  
ム○國內ノ貴族モ其配下ノ者ヲ軍役ニ出タスヲ  
法トス其人當ハ主人ノ随意ナレモ兵士ノ体格軍  
事ニ的當シ年齢十八歳以上四十歳以下ナラザル

ヲ得ス土地ヲ廣ク領スル者ハ兵士ヲ出タスノ數  
モ亦甚タ多シ或ハ三千人或ハ五千人最モ多キハ  
六千人ノ賦兵ヲ出タス者アリ○軍役ヲ免カル、  
者ハ貴族、官吏、僧徒、文學技術ノ生徒、是ナリ商人モ  
會社ヲ結タル者ハコレニ準ス又農民ト雖モ兄弟  
ナクシテ父母ヲ養フ者歟若シクハ父母ナキモ三  
子以上ヲ養フ者ハ軍役ヲ免スコサツクノ兵ヲ募ル  
ニハ別ニ其法アリ其他魯西亞ノ領内ニアル蠻野  
未開ノ民ハ或ハ骨格小短ニシテ用ニ適セス或ハ  
勇カナクシテ軍事ヲ恐ル、カ故ニ皆役ヲ免ス國



内ノ人口ヲ平均スルニ大凡男子五百人ノ内ヨリ  
二人ヲ役スレハ九萬乃至十萬ノ兵ヲ得ベシ  
兵士在役ノ年期親兵ハ二十二年他ノ兵ハ二十五  
年ヲ限トセリ千八百四十年以來改メテ令ヲ下タ  
シ在役十年若シクハ十五年ノ後ハ其姓名ヲ兵士  
ノ籍ニ殘シテ故郷ニ返ヘシ事アルキニコレヲ召  
スノ法ヲ設ケタリ乃チ其人數ヲ以テ預備ノ兵ト  
為シ在役十年ナリシ者ヲ第一ノ預備ト名ツケ十  
五年ナリシ者ヲ第二ノ預備ト名ツケ合シテ二十  
一萬五千ノ數アリ

毎年夏命ヲ下タシテ兵ノ數ヲ定メ冬第十一月ヨ  
リ兵ヲ募リ翌年第一月一日ニ至テ事ヲ終ルヲ例  
トス凶年ニハ募兵ノ命ヲ止ルヲアリ千八百三十  
六年ニハ全國一時ニ命ヲ下ダシ千人ノ内ヨリ五  
人ノ兵ヲ募リ千八百三十七年ニハ南半國ニ命ヲ  
下タシ又千人ヨリ五人ヲ募リ千八百三十八年ニ  
ハ北半國ニ命ヲ下ダシ千人ヨリ六人ヲ募リ千八  
百三十九年ニハ西半國ニ命ヲ下ダシ千人ヨリ五  
人ヲ募リ千八百四十年ニハ全國一時ニ命ヲ下ダ  
シ二十五府ハ千人ヨリ六人ヲ募リ二十二府ハ千



人ヨリ五人ヲ募リ其餘四府ハ凶作ノ故ヲ以テコ  
 レヲ免シタリ右ノ負數ヲ平均スレハ千人ニ付五  
 人ノ割合ナリ其後二十年ノ間モコノ例ニ從ヘリ  
 千八百六十五年軍務局ノ公報ニ據レハ陸軍ノ總  
 數左ノ表ノ如シ但シ此數ハ名ヲ存スルノミニテ  
 或ハ實ナキモノアリ

	甲編成隊	平時ノ備	戰爭ノ備
步兵		三十六萬四千四百二十二	六十九萬四千五百一十一
騎兵		三萬八千三百零六	四萬九千八百八十三
砲兵		四萬二千七百三十二	四萬八千七百七十三

土工兵	一萬三千四百十三人	一萬六千二百零三人
乙第一預備隊	十萬零二百八十五人	十二萬七千九百二十五人
丙第一預備隊	二十五萬四千零五十二人	十九萬九千三百八十八人
共計	八十二萬二千零九十六人	百十三萬五千九百七十五人

魯西亞ノ兵卒ハ妻ヲ娶レル者多シ其政府ノ法兵  
 卒ノ妻ヲ娶ルカ爲ニ自カラ便利ヲ設ケ他ノ歐羅  
 巴諸國ト風ヲ異ニセリ其一事ヲ舉ルニ魯ノ兵卒  
 ニハ住宅ヲ與ヘ子アルモノニハコレニ衣食ヲ給  
 シ教育ノ扶助ヲ加ヘリ他國ニハ絶テナキナリ  
 右ハ恩典ニ似タレ他ニ亦不自由ナルヲアリ即



チ其不自由トハ兵卒ノ子ハ必ス兵卒ノ役ニ用テ  
他職ニ役スルヲ得セシメサルコトナリ幼少ノ時ヨ  
リ武ヲ以テ養ヒ父ト共ニ屯所ニ居ルコト暫クニシ  
テ去テ陸軍局ニ入り兵卒ノ業ヲ傳習スコノ類ノ  
兵卒甚ク多ク千八百四十二年ニハ殆ト三十萬人  
ニ近シ爾後モ次第ニ増加セリ無級士官等ハ此人  
數ノ内ヨリ拔擢セラレモ多シト云フ  
首府ペイトルスポルフニハ少年ノ兵士土工兵砲  
兵士官親兵下等士官ノ為ニ設ケタル學校數所  
アリ少年ノ兵士ニテ業ヲ成シタル者ニハ士官ノ位

ヲ與ヘ身分アル者ノ子ハ在役二年ノ後ニ士位ヲ  
許ス右ハ下等ノ學校ナリコノ外ニ「コルプス・デ・カ  
デット」トテ陸軍士官ノ大學校一處アリ此學校ハ千  
七百三十一年建立セシモノニテ生徒ノ數七百人  
皆貴族將士ノ子弟ナリ學生ノ階級ヲ五等ニ分チ  
業成リ校ヲ去ル者ハ皆士官ノ位ニ列ス且此學校  
ニハ專ラ小貴族ノ子弟ヲ教ルヲ以テ趣旨トセリ  
蓋シ良士官タル可キ人物ヲ多クセンガ為ナリ舊  
都「モスコ」及ヒ其他ノ都府ニモ皆兵學校アリテ  
其教授甚ク盛ナリ魯西亜ノ陸軍ハ年々増加スル



ヲ以テ士官ノ數モ亦從テ増サ、ルヲ得ス千八百  
六十三年新令ヲ下シテ陸軍ノ士官タル可キ者  
ノ官途ヲ便利ニセリ此新令ニ據レハ國內ノ少年  
大學校ニ於テ執行シタル者ハ直ニ陸軍ニ入り吟  
味ヲ經スシテ無級士官タルヲ許シ三月ノ後吟味  
ヲ受ケテ士官ノ位ニ列ス且是等ノ學生ハ舊役ノ  
欠負ヲ待タスシテ登級ス可シ中學校ニ於テ執行  
シタル者ハ入局六月ノ後ニ士官タルヲ許ス其他  
自カラ好テ軍局ニ入ラント欲スル者ハ貴族平民  
ノ區別ナク皆吟味ヲ受ケ入局ノ後一年ヲ經サレ

ハ士官タルヲ得ス  
魯西並ニ於テ陸軍士官ノ給料ハ他國ノ風ニ比ス  
レハ甚タ少シ給料一歳ノ割合左ノ如シ總督千百  
十六ル  
副總督八百三十八ル  
大隊長  
五百六十ル  
副大隊四百十九ル  
中隊長三百七  
副大隊長三百三十六ル  
中隊長三百七  
副中隊長二百八十二ル  
第一等士官  
二百三十八ル  
第二等士官二百二十四ル  
下等士官二百九  
無級士官十  
乃至百二十三ル



武家不定隊ノ内ニテ最モ盛ナルモノハ「ゴサツク」ノ  
兵ナリ「ド」河南境裏海ノ邊ニアリノ畔ニアル「ゴサツク」ノ人  
口六七十萬人事急ナルキハ男子十五歳ヨリ六十  
歳ノ者ハ盡ク軍ニ從フヲ法トス然レハ平日ノ常  
備ハ騎兵五十四隊ニ分チ各隊ノ兵負一千零四十  
四人共計五萬六千三百七十六人ナリ石ノ外諸方  
ニアル「ゴサツク」ノ人種ヲ合スレハ人口八十七萬五  
千軍ニ役スルモノ十二萬九千ヲ得ベシ「ゴサツク」ノ  
人種ハ奴隸ノ羈絆ヲ脱シテ獨立セル者ナリ自カ  
ラ其田地ヲ耕シ自カラ其山林ニ獵シテ政府ニ稅

ヲ納メス軍役ヲ以テ稅ノ代トセリ其人ヲ三等ニ  
分チ生レテ十七歳ニ至ルマテ幼年トシ軍役ナ  
シ十八歳ヨリ四十二歳ニ至ルマデ二十五年ノ間  
ヲ壯年トシテ專ラ軍事ニ役ス四十三歳ヨリ四十  
七歳ニ至ルマデヲ退老ト名ツクレハ尚軍役アリ  
全ク役ヲ免カル、ハ四十八歳ノ後ナリ非常ノキハ此例ニ  
非ラサ又「ゴサツク」ノ兵士ハ自己ノ費ヲ以テ武器戎  
装ヲ備ヘ各其家ニ軍馬ヲ飼ハサルヲ得ス但シ大  
砲及ヒ其訓練ノ費用ハ政府ヨリコレヲ出シ且國  
境ヲ出テ、軍役ニ從フキハ政府ヨリ賄料ヲ給シ



外ニ又些少ノ錢ヲ與フ「ドン河畔ニアル」コサック人  
ノ如キハ土地ノ稅ヲ納メサルノミナラス却テ官  
府ヨリ金ヲ出タシ毎年兵士ノ扶助トシテ二萬一  
千三百十「ル」ブルヲ賜ハルト云フ

錢貨出納

魯西亞ノ國ハ文明未タ洽子カラス製産ノ物未タ  
多ラサルカ故ニ其土地ノ廣サト人民ノ數トニ比  
スレハ歲入ノ高甚タ少ナシ千八百六十二年會計  
局ノ公報ニ據レハ歲入二億九千五百八十六萬一  
千八百三十九「ル」ブル「ル」歲出三億一千零六十一萬



九千七百三十九「ル」ブルニシテ出入ノ差一千四  
百七十五萬七千九百「ル」ブルナリ同年歲入ノ割  
合左ノ如シ

分頭稅

二千八百二十五萬千六百「ル」ブル

地稅

二千五百二十五萬千七百三十三「ル」ブル

礦山、帝土、山林

一千七百七十九萬八千零三十二「ル」ブル

商賣免許ノ稅

二千四百二十二萬八千九百七十八「ル」ブル

港運上

三千二百八十萬「ル」ブル

酒稅

一億二千三百零三萬二千五百八十八「ル」ブル

石ノ外賣買稅

三千四百九十八萬七千六百二十四「ル」ブル



小目諸税

一千六百五十五萬零九千零三十一ル

共計 二億九千五百六十六萬二千八百三十九ル

同年歳出ノ割合左ノ如シ

國債ノ利息 五千四百二十九萬六千八百八十八ル

軍務局 一億零六百五十七萬五千八百九十一ル

人民教育 四百十五萬六千八百二十四ル

海軍局 二千零五十八萬九千八百三十一ル

裁判局 五百五十五萬二千八百九十六ル

寺院 四百六十六萬二千零九十八ル

文武官老退ノ者

へ與ル扶助金 一千三百十八萬零六十九ル

鉄道社中へ貸附 七百七十五萬九千六百六十二ル

右ノ外雜費 九千三百九十九萬七千二百七十九ル

共計三億一千零六十一萬九千七百三十九ル

ブル一千八百六十七年ノ記ニ據レハ帝家ノ費用

ハ八百九十一萬九千七百四十一ル

ト云フ

千八百六十一年會計事務執政ノ公報ニ國債ノ高

ヲ記スル左ノ如シ

外國ノ逋債 三億五千九百九十七萬七千七百七十九ル



内國ノ逋債

二億二千六百六十一萬六千九百九十七ロ一ブル

金庫ノ手形及ポ一ランド

ロ一ランドノ逋債 四億一千六百萬ロ一ブル

右ノ外ニ政府ヨリ紙幣ヲ出タス一七億五千萬ロ

一ブルヨリ多シ但シ此紙幣ハ國中ノ為替問屋及

ニ政府ノ請合ニテ通用スルモノナリ其元金ハ九

千六百二十四萬一千六百十八ル一ブルヲ貯置キ

會計事務執政ノ權ニ屬ス近来ハ紙幣ノ通用益多

クシテ國內ノ正金ハ減シタリト云フ

西洋事情ニ編卷之二終





